

傘寿を迎えて

宮川 良一

(昭和34年機械科卒)



5月は新天皇が即位し令和元年となり、タイでは時を同じくしてワチラロンコン国王が即位しました。このおめでたい時に我が社(アイシン産業)は、タイに現地法人を設立し開所式を行いました。中国、無錫に次ぐ二つ目の海外拠点です。

私は今会社では実務は殆どしないで、趣味のゴルフと囲碁をほとんどにやっています。我が社(アイシン産業)のPRを一つ。

我が社の経営ビジョンは「粉粒体ハンドリングの分野においてグローバルにニッチトップ企業を目指す」です。

○幼少時代

私は大曲市の病院で生まれ、出産後すぐ母親が緊急入院した為私に授乳できなかったそうです。当時ミルクは庶民には中々手に入らず困った父は、必死で周り近所のお母さん方に頼み飲ませて貰ったそうです。父親が出征し農家の実家に帰った私は、祖母ちゃんが生味噌をつけた「握りマンマ」をおやつ代わりに食べて育ちました。

○少年時代

わが家は川の傍の低地にあり当時は清冽な水が流れていて、飲み水や炊事・洗濯など我が家にとって日常の生活に欠かせない川でした。その川が氾濫すると、アツという間に増水し大きな濁流となり、周りの田んぼが水没し子供の私には大層な恐怖でした。

当時父はトラックで木材や薪炭を運ぶ運送業をしていました。道路のインフラが整ってない時代で、尖った碎石を撒いた道で、年がら年中タイヤのパンク修理をしていました。車は故障だらけで殆ど修理の日々で、恐らく1週間に2~3日しか動いていなかった気がします。採算が合う筈はなく、借金を抱え倒産してしまい、父は勤めの運転手になり長年借金の返済に必死に働いていました。

○高校時代

秋工に入学し家から奥羽本線神宮寺駅まで自転車で4~50分位掛けて行き、秋田駅まで汽車通学しました。通学途中雄物川に橋幅の狭い嶽見橋が掛かっています。通い出して間もなく家に帰る夕方、運悪く橋の真ん中で大型トラックと出くわし、自転車から降り欄干に寄り添ったら後ろの荷台に括り付けていた鞆が真っ暗な川面に落ちてしまったのです。橋を渡ったら明かりの点いた家があり小舟も見えたので、舟で探してくれるよう必死に頼んだ記憶があります。2日後下流で鞆が見つかったとの知らせがあり郵便局に貰いに行きましたが、

手元に戻った教科書はタププリ水を吸い厚さが倍に膨らんでいました。授業中1枚1枚剥がしめくった頁の字は滲んで判読不能な箇所も有ったが、卒業まで使いました。

○就職

私はその頃にしては少ない1人っ子だったので、両親の希望もあり県内企業を2社受けたものの不況の影響と己の不成績も有りダメでした。秋田を数年は出る事にして、機械の一期生で大先輩の会社(東京・品川/森試験機製作所)に機械の同級生6人と一緒に就職しました。同社は秋工の先輩が数人居たのでいろいろ教えて頂いて、度々ご馳走になり大変お世話になりました。配属先は現場の組立班で、新人の私は部品の仕上げ加工を終日繰り返していました(後日独立して自社製品を造る時にこの時の作業経験が活きたとはその時は夢にも思いませんでしたが・・・)。

○転職1

森試験機製作所に2年ほど勤めた後、セールスエンジニアに憧れ、八幡製鉄出入りの商社「宮原商店」に営業で入社しました。このとき、私は機材部購買課長に気に入られ知遇を得て沢山の注文を頂き、且つミスした時はもみ消して貰いました。残念な事にそれほど目を掛けて頂いた課長は、プリンスの高級車で家族とドライブ中事故で帰らぬ人となってしまいました。

○転職2

前職で電気部の上司の縁で、彼の友人の通信工事会社に入社(現・NTTの設備工事会社の下請けの下請で局内設備関係)。仕事は電話局に向向して自動交換機を設置して配線の接続工事をする作業でした。長野県松本の電話局で、工事長以下5名ほどで配線工事をしていたら、社長が元請に呼ばれて工事の遅れを挽回しないと大変な事になると警告され、血相変えて現場に来たのです。それから宿に帰れず不眠不休。完工まで一ヶ月も風呂に入れず身体を洗ったら石鹸を3度塗っても泡がたちませんでした。

○転職3

東京に戻って同級生の三浦洋介君に会って現状や心情を伝えたと、彼の取引先がセールスエンジニアを募集していると紹介され、本社は福岡で粉粒体の供給機(特許品)のメーカーで渋谷の東京営業所に採用されました。この会社から今日に至る私の粉粒体との付き合いが始まったのです。九州の本社に研修に行った際は、毎日のように役員のお宅に招待され、玄海灘のクワ鯛をご馳走に預かりました。ちなみに三浦洋介君とは生涯に亘り同業としても縁があり、私と友人が最初に興した会社の社長として長年活躍しました。

○独立

会社設立までの経緯は2016年の本誌に掲載して戴いたので割愛しますが、紙面の関係で前回書けなかったのですが、独立したばかりの頃は森試験機時代の秋工先輩達にお世話になりました。短期間でしたが、仕事が終わってから外注先の町工場に駆けつけてくれ加工を手伝ってくれました。納期遅れが慢性化し、お客に平謝りだった私はどんなに助かった事かお礼の申しようもありません。先輩達の名は横田忠さん(現・日本試験機製作所社長)、斎藤靖宏さん、難波毅さん達です。

こんにち東京秋工会は、知恵を絞り交流の輪を広げてさまざまな活動をしています。和気あいあいと結束も固く各イベントにも積極的に参加し県内他校に勝るとも劣らない活躍をしています。仕事人間で飛び回った非才の私は節目節目でたくさんの方々に助けられ傘寿を迎える事ができました。有難く深く感謝申し上げる次第です。



YN ファイル

別製ファイル・バインダー・印刷
制作・販売

〒340-0114 埼玉県幸手市東二丁目36-5

☎ 090-3041-1350

FAX 0480-42-4535

社長 柳田 憲夫 昭和43年採鉱科卒